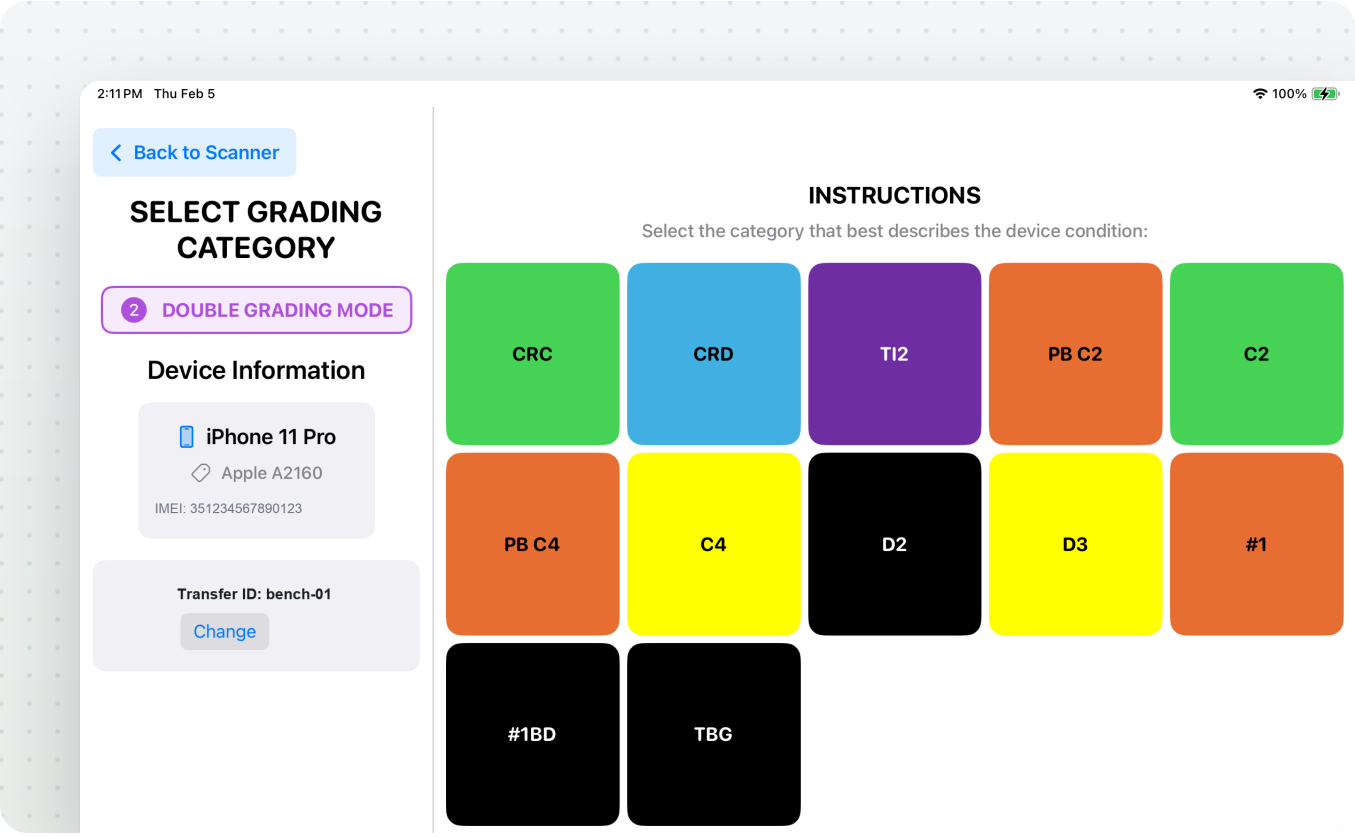
MANUAL GRADING & CLEANING APP

デバイスをスキャンし、カテゴリをタップ、完了。

外観のグレーディングとクリーニングを、システム外での判断ではなく、作業台のタブレット上で時間計測と監査の対象となるステーションとして実施します。グレードはデバイスの既存レコードに、タイムスタンプ、オペレーター、履歴を伴って記録されます。



対象読者
デバイス処理事業者の運用・品質責任者

実行環境
作業台の iPad · Control Center

ウェブ
assetscience.com

概要一覧

購入検討者が必ず尋ねる 8 つの質問。

本製品はグレーディングとクリーニングを行います。テストも消去も行いません。本製品が追加するのは、診断製品と消去製品がすでに書き込んでいるのと同じデバイスレコード上のグレードです。

証明書 ● 本製品では発行しません

グレーディングでは消去証明書を発行しません。グレードが記録されるのは、 **証明書を保持するデバイスレコードと同一のレコード** （Pro-Diagnostics、MacRestore または Pro-Diagnostic PC が発行）であり、公開証明書にはプロセスとグレーディングのブロックが含まれます。

ADISA 認証 ● 該当なし

ここではデータを消去しないため、認証の対象はありません。ADISA 保証レベル 4 が適用されるのは、消去を実行する製品である **Pro-Diagnostics と MacRestore**です。

消去の種類 ● なし

本製品のクリーニングは、デバイスレコードに独立した訪問として記録される **現場でのクリーニング作業** です。データ消去は診断ステーション上の別プログラムです。

ガイド付きユーザーテスト ● いいえ

画面は 1 つです。オペレーターはデバイスを見て指示を読み、 **カテゴリを 1 つタップします。**タップで送信され、2 つ目の手順はありません。

テストの種類 ● なし

外観グレードとクリーニング作業です。グレードは **判定ではなく測定値**です。レコードに記録されるのはカテゴリであり、合否ではありません。

主な機能 ● 4

タブレットでスキャンしてグレード付与。 **顧客ごとに定義するグレーディングカテゴリ。** グレードが価格を左右する場合のダブルグレーディング。グレーディング作業台での UPH 追跡とオペレーター監査。

対応プラットフォーム ● iPad

実行環境は **作業台の iPad**です。手元のデバイスは、識別子をスキャンして既存のレコードに照合して識別します。カテゴリとプログラムは Control Center から取得されます。

データ分析と API ● REST

デバイスレコードに 1 回目・2 回目・最終のグレードを記録。Explore グリッドは **47 列をエクスポート可能**で、CSV または JSON、スケジュール配信レポート、REST API に対応します。制限はありません。

1

スキャン

オペレーターがデバイスをスキャンします。モデル、品番、IMEI が既存のレコードから表示されます。

2

タップ

状態を最もよく表すカテゴリを 1 回タップします。そのタップでグレードが送信されます。

3

合意

ダブルグレーディングモードでは、2 人目のオペレーターが 1 人目の回答を見ずに同じデバイスをグレーディングします。

4

レポート

グレードは Control Center のデバイスレコード、Explore グリッド、API で参照できます。

位置づけ。 外観グレーディングとクリーニングは、Control Center の Configuration Wizard にある平易な表現の目標のうちの 2 つで、入荷、データ消去、診断と並びます。グレーディング作業台は他と同じステーションであり、時間計測と監査の対象となり、同じ場所にレポートします。

作業台のフロー

デバイス 1 台につき操作 1 回。

この画面でのオペレーターの仕事は、手元のデバイスを最もよく表すカテゴリを選ぶことだけです。それ以外はすべてすでに分かっています。

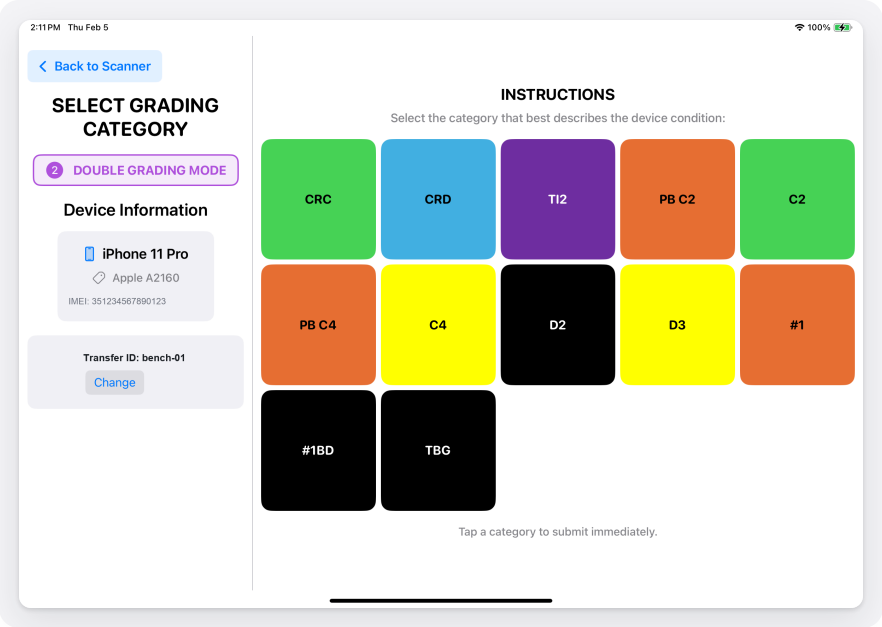


図1 iPad のグレーディングアプリ → グレーディングカテゴリの選択。左はスキャンしたデバイスのモデル、品番、IMEI、所属する転送、Double Grading Mode のバッジ。右は顧客の 12 カテゴリで、それぞれ 1 タップ。表示されている識別子は架空のものです。

1

スキャン

デバイスは既存のレコードに直接スキャンされます。モデル、品番、IMEI はオペレーターではなくそのレコードから取得されます。

2

カテゴリ

カテゴリをタップすると即座に送信されます。各タイルには顧客が定義した色とコードが付いているため、作業台の向こうからでも読み取れます。

3

完了

次のユニットのためスキャナーに戻ります。グレード、オペレーター、時刻、転送 ID はレコードに記録済みです。

拒否、グレーディングなし

入荷または診断のレコードがなければ、グレードは付きません。

プラットフォームが一度も見たことのないデバイスはスキャナーで拒否されます。グレードは必ず既存のレコードに追加されるため、ユニットの履歴から切り離されることはありません。

クリーニングも同じ方式

クリーニング作業は独立した訪問です。

現場でのクリーニング作業は、グレードと同じようにデバイスに対して記録されます。オペレーター、時刻、転送が残ります。サービスもテストもなく、データ消去もありません。消去は診断ステーションのままです。

ユニットに紐付く写真記録。 グレーディング作業台で撮影した写真はデバイスレコードとともに移動するため、購入検討者から求められたときに、グレードの根拠となる状態を主張ではなく提示できます。

顧客ごとに定義するカテゴリ

顧客独自のコードと色によるグレード。

グレーディング基準は顧客ごとに標準化され、他のサービスと同じようにステーションで適用されます。オペレーターがタップするタイルは、後から文字に対応付けたものではなく、リストにあるカテゴリそのものを名称と色で表示します。

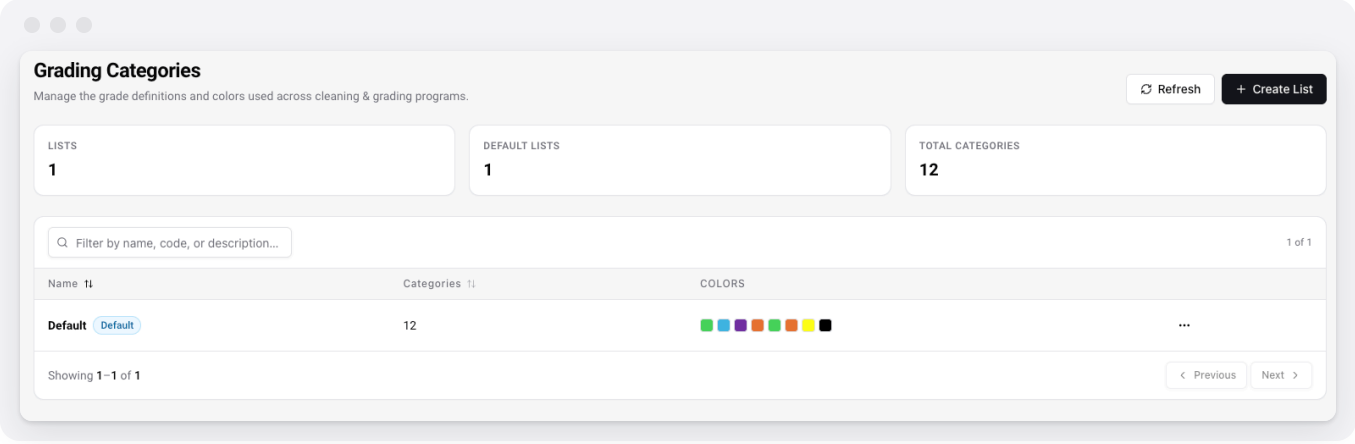


図2 Control Center → Advanced modules → Grading Categories。クリーニングとグレーディングのプログラム全体で使うグレード定義と色。ここでは 12 カテゴリの Default リストが 1 つあり、次の顧客の体系用に Create List があります。

ダブルグレーディング

グレードが金額に直結する場合は、2 名のオペレーターの一致が必要です。

再販価格が変わるカテゴリでは、グレードを受け付ける前に **独立した 2 名のオペレーター** が同じグレードに達することを要求できます。2 人目のグレーダーには 1 人目の回答は表示されません。不一致は平均化せずに表面化させ、最終グレードが下流のすべてでデバイスの最新値として参照されます。

- **ダブルグレーディングモードは必要性のあるカテゴリにのみ適用し**、全ユニットには適用しません。
- **2 人目のグレーダーはブラインドで評価します。** 1 人目の回答は画面に表示されません。
- **1 回目・2 回目・最終のグレード** はすべてレコードに残るため、異議は担当者と時刻まで遡れます。

訪問	記録される内容
クリーニング	デバイスに対して記録される現場でのクリーニング作業。サービスもテストもありません。
グレーディング	1 回目のグレーディング。付与されるのは 1 回目のグレード.
2 回目のグレーディング	再グレーディング。追加されるのは 2 回目のグレード と 最終グレードで、下流ではこれをデバイスの最新値として参照します。

プラットフォームの一部である理由。 システム外で決めたグレードは、後から誰も監査できない数値です。ステーションとして運用すれば、購入検討者が異議を唱えたときに、グレードにはタイムスタンプ、オペレーター、デバイス履歴が伴います。グレードはスプレッドシートではなくデバイスレコードとともに移動します。

オペレーター監査

オペレーターが推測ではなくグレーディングしていると、どう分かるのか。

すべてを B と付けるグレーダーは、よく見るグレーダーより多くのユニットを処理します。完了した作業のサンプルをレビューしても、確認されると分かっていたときに何をしたかが分かるだけです。監査とは、結果をプラットフォームがすでに知っているテストを、通常のデバイス上で通常のキューに紛れ込ませたもので、実作業と区別がつきません。

製品の表現そのまま

> 監査とは、オペレーターの信頼性を評価するために結果を仕込んだテストです。これらの割合は、オペレーター監査ステータスごとに、オペレーターに割り当てられる監査と実テストの比率を定義します。

Control Center → Operation Management → Audits より原文のまま。

品質

出荷前に捉えるオペレーターのばらつき。

オペレーターのばらつきは no-fault-found 率を押し上げます。監査により、誤ったグレードのまま出荷される前に捉えられます。

トレーニング

新人は手厚く監視し、熟練者には任せます。

新しいオペレーターは手厚く監視し、熟練者にはより重要なスイートを任せます。

説明責任

グレードに関する異議は解決できます。

すべての操作はログに記録され、タイムスタンプが付き、オペレーターの ID に紐付きます。

個人単位ではなく監査ステータス単位

新人は高頻度で監査し、実績あるオペレーターは低頻度にします。

監査と実作業の比率はオペレーター監査ステータスごとに設定します。一度設定したポリシーに従って自動的に調整され、リストを維持管理する人は不要です。

設定箇所は 2 か所

施設ごと、そしてテストスイートごと。

Operation Management → Audits で施設ごとのポリシーを設定します。スイート側では、オペレーター監査は失敗コード表示、デバイスサポートレベル、ラピッドテストと並ぶ 0–5 の設定項目です。

行動につながる数値

スループットと並ぶ監査失敗率。

監査失敗は Performance Dashboard の KPI 帯に Processed、Pass rate、Avg UPH と並んで表示されます。オペレーターごとの監査失敗率は Explore の列にあり、Top failed audits が何を教育すべきかを示します。

公平な比較か、比較しないか

ダッシュボードは不公平な比較を拒否します。

監査レベルの異なる 2 名のオペレーターを並べると、プラットフォームはチャートを描く前にその旨を表示します。一方はシフトの一部を仕込み作業に費やしているため、成績差が出るのは当然だからです。

正直に示す 2 つの限界。 テストごとの監査内訳は当日のライブビューであり、過去のアーカイブではありません。また監査が測るのはオペレーターの信頼性であり、デバイスの状態ではありません。判断を任せられる人かどうかを測るもので、この端末が A か B かを測るものではありません。

UPH とレコード

他と同じステーション、他と同じ計測。

グレーディング作業台は診断ステーションと同じ Control Center にレポートします。時間あたりの処理台数、オペレーター、グレードは、同じダッシュボード、同じグリッド、同じ API で参照できます。

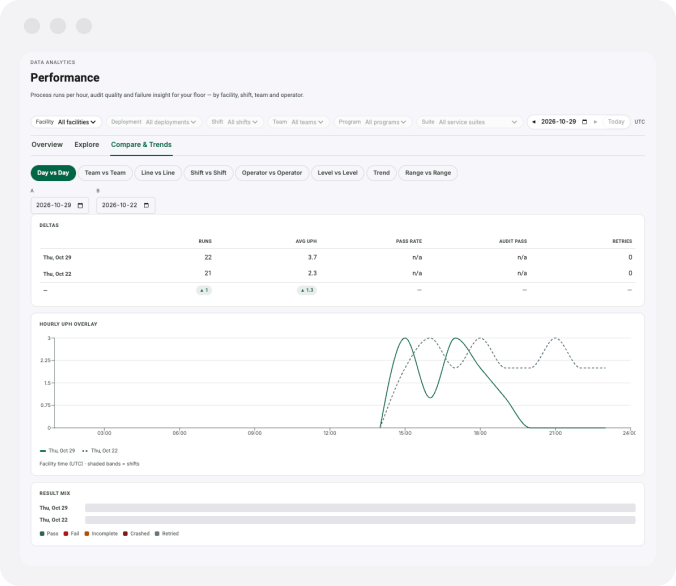


図3 Control Center → Data Analytics → Performance → Compare & Trends、Day vs Day。2 日間の実行数と平均 UPH を差分付きで表示し、その下に両日を施設の現地時間で同じ時間軸に描画します。

最上部に表示される 7 つの数値： Processed、Pass rate、Avg UPH、Current UPH、Audit fail、Retries、Incomplete。施設、デプロイメント、シフト、チーム、プログラム、サービススイートで同時に絞り込めます。

平均 UPH は稼働時間で重み付けされるため、現場に 2 名いた 1 時間と 20 名いた 1 時間は同じには数えません。シフトは時間別プロットに網掛け表示されるため、落ち込みは実際に稼働していたシフトと対照して読めます。

これが良い数値かを問う 8 つの方法： Day vs Day、Range vs Range、Team vs Team、Shift vs Shift、Line vs Line、Operator vs Operator、Level vs Level、Trend。Operator vs Operator はトレーニングが必要な人を示し、Level vs Level は新人と実績あるオペレーターを比較します。

グレードが表示される場所。

場所	得られるもの
Configuration Wizard	外観グレーディングとクリーニングは、入荷、データ消去、診断と並ぶ平易な表現のプログラム目標です。
Grading Categories	クリーニングとグレーディングのプログラム全体で使うグレード定義と色のリスト。顧客の体系ごとに 1 リスト。
Device History	デバイス自身のレコード上のグレーディング訪問。診断結果や消去と並び、オペレーターとタイムスタンプが付きます。
Device Scanning	Combined 画面は、スキャンしたデバイス、または CSV によるパレット全体について、直近の診断、グレーディング、データクリーニングの結果を統合します。
Reporting → Explore	ライブのレコードグリッド。絞り込み、オペレーター別のチャート表示、識別子の CSV による一括検索、47 列の CSV または JSON エクスポート、スケジュール配信ができます。
Automation	フローはトリガー条件に一致したときに、レコードがレポーティングに公開される前に Grade フィールドを更新できます。
REST API	同じレコードを Back-Office API 経由で取得できます。CSV と REST の完全なエクスポートが含まれ、グリッド内のデータに制限はありません。

オペレーター監査

オペレーター監査を最初に実現したのは当社であり、そのツールはプラットフォームに標準搭載されています。

すべてのグレードには、オペレーター、時刻、デバイス履歴が伴います。仕込んだ監査が通常のキューで実行され、比率はオペレーターのステータスに応じて自動的に調整され、結果はスループットと同じダッシュボードに表示されるため、速度と精度を議論ではなく同時に可視化できます。

自社の作業台でデバイスをグレーディング。

無料トライアルを開始し、Control Center で顧客のカテゴリを定義し、iPad からデバイスをグレーディングしてください。その後レコードを開き、診断結果と並ぶグレードを確認できます。

無料トライアル
onboarding.assetscience.com

公開証明書
verified.assetscience.com/verify

ウェブ
assetscience.com

© 2026 Asset Science. スクリーンショットは製品版ビルドのものです。表示されているデバイス識別子、転送 ID、オペレーター名、顧客データは架空のものです。製品名および商標は各所有者に帰属します。